

報道関係各位

生きているミュージアム NIFREL

～生きもので季節にふれる～

小さな卵を抱える「イイダコ」を展示中

11月24日、25日には年パス会員限定「イイダコのタコつぼ作り」も初開催



貝殻の中で卵を抱えるメス

大阪府吹田市「EXPOCITY」の生きているミュージアム「NIFREL(ニフレル)」では、館内1階の「わざにふれる」ゾーンにて、10月28日よりイイダコ(大きさ約5cm、10匹)を季節限定で展示しています。今回、阪南市西鳥取漁業協同組合のご協力で11月17日に新たに搬入したイイダコのうちメスの1匹が貝殻の中で卵を抱えているのを確認しました。現在親ダコは卵を揺らして新鮮な海水を送るなどし、卵を守っています。

イイダコは一般的に200～300個を産卵しメスが孵化まで卵を守ります。産卵日が未定なので孵化日は確定できませんが、卵の中の仔ダコが成長しているのを確認しており、年内に孵化するのではないかと考えています。展示水槽から時折見える卵の塊はまるでご飯粒のような形をしており、「イイ(飯)ダコ」の名前の由来がうかがえます。



2021年に産卵した卵の様子

晩秋から春にかけて産卵期を迎えるイイダコは、卵を抱えたメスが“子持ちダコ”の名で古くからこの時期の味覚として親しまれてきました。ニフレルでは冬の季節展示として2024年2月中旬までイイダコの展示を予定しています。

また、11月24日(金)、25日(土)には、ニフレル年間パスポート会員限定で「イイダコのタコつぼ作り」を初開催します。伝統的なタコつぼ漁の文化にふれながら、イイダコの隠れ家を作る体験型のイベントです。完成したタコつぼは後日、イイダコの展示水槽に入れて実際にイイダコの隠れ家として使用する予定です。



タコつぼ作りのイメージ(キュレーター制作時の様子)

【取材・撮影のご案内】

11月24日、11月25日の14時30分より「イイダコのタコつぼ作り」を開催します。

取材撮影をご希望の方は、事前に下記までご連絡ください。

NIFREL(ニフレル) PR・広報担当 西前、渋谷

TEL:06-6876-2204 FAX:06-6876-2235 MAIL: nifrel.pr@nifrel.jp

【「イイダコのタコつぼ作り」について】

《開催日時》2023年11月24日(金)、11月25日(土) 各日14時30分～15時30分

《対象者》ニフレル年間パスポートをお持ちの3歳以上の方

《内容》キュレーターによるイイダコの生態やタコつぼ漁文化についてのお話の後、粘土を使いタコつぼを成形します。

《開催場所》ニフレル3階多目的室

《参加人数》各日5組程度 ※参加の応募受付はすでに締め切っています。

《その他》イベント当日は、タコつぼの成形までの体験です。

その後、ニフレルにて乾燥させ焼き上げます。完成したタコつぼは展示水槽に入れる予定で、その様子はニフレル公式インスタグラムにてライブ配信も予定しています。

【イイダコについて】

胴(頭のように見える部分)の大きさが約5cm、腕を広げても全長約30cmとタコの中では小型の種類です。卵の塊がご飯粒のように見えることから、「イイ(飯)ダコ」の名がつけました。

【イイダコの展示について】

《展示期間》2023年10月28日(土)～2024年2月中旬(予定)

《展示場所》1階「わざにふれる」ゾーン

《展示数》10匹

《協力》大阪府立弥生文化博物館、阪南市西鳥取漁業協同組合

《お問い合わせ》ニフレルインフォメーション

TEL:0570-022060(ナビダイヤル)

※生きものの状況により予告なく展示を変更または中止する場合があります。



《生きているミュージアム「NIFREL」施設概要》

【名称】NIFREL(ニフレル)(館長:小畑 洋)

【運営会社】株式会社海遊館(大阪市港区、社長:村井 弘幸)

【所在地】吹田市千里万博公園2-1 EXPOCITY 内

【営業時間】平日 10:00～18:00

土・日・祝 9:30～19:00

※いずれも最終入館は閉館の1時間前

※状況により変更する場合があります。

【休館日】年中無休。 ※年に1回設備点検のための臨時休館あり

【施設内容】展示ゾーン(いろにふれる、わざにふれる、およぎにふれる、ワンダーモーメンツ、かくれるにふれる、みずべにふれる、うごきにふれる、つながりにふれる 合計8ゾーン)

ピクニックカフェ「EAT EAT EAT」(200㎡・112席)

ミュージアムショップ(NIFREL×NIFREL)

【交通】大阪モノレール「万博記念公園駅」徒歩2分

【駐車場】約4,100台(EXPOCITY 全体用駐車場)